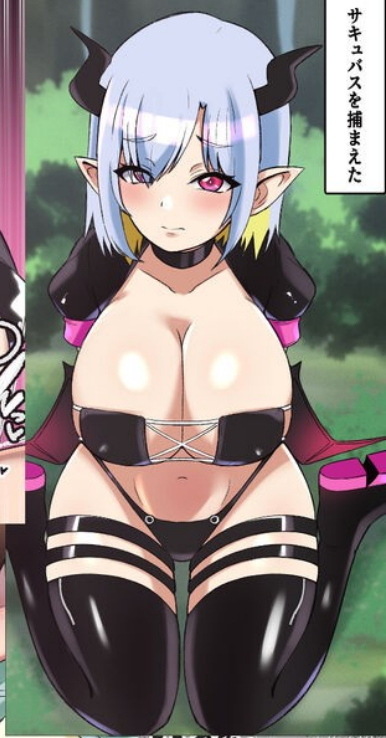


サキユバスを捕まえた



パイズリサキユバス♡

そんな僕の行為を

捕えた爆乳サキユバスをパイズリオナホにした勇者の末路

オールパイズリファイニッシュ!!!

うあっ♡ ノーハンドなのにこの挟み具合...





そんな僕の
行為を

サキユバスを捕まえた

!!!
できないし
り僕でも
!!!

うあっ♥
ノイランドなのに
この挟み具合……っ

アッ
アッ
アッ

サキユバスを捕まえた



魔王を倒すため
勇者として旅をしているが
まさかこんな序盤で……



魔王の幹部クラスの
サキユバスを捕まえられる
とは思わなかった

あまりにもあっさりと
捕まえる事ができたので
拍子抜けしてしまった

だけどこれは
またとないチャンスだ



こいつから
魔王の弱点を
聞き出すことが
できれば……



魔王を倒す事が
できるはず……





サキユバスに
出会ったらもつとも
気を付けなければ
ならない事は……

それは彼女の
魅了(チャーム)に
惑わされないように
することだ……



だけど
気が付けば僕は



無我夢中で
サキユバスの胸に
腰を振っていた



この大きな胸を見た時に
引き寄せられるようにして
自分の陰部を挿入していた

そんな僕の
行為を

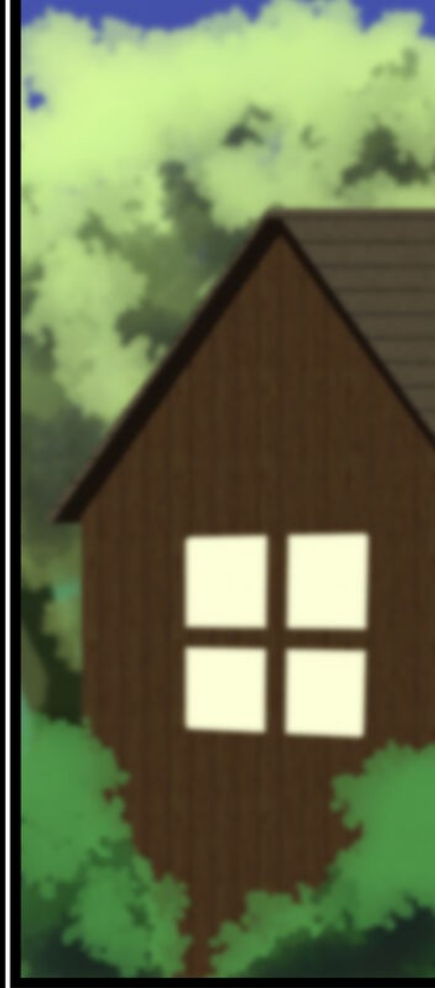
サキユバスは少し
怯えるような表情で
見つめてきた

それが更に
僕を興奮させた

自分をおさえられない……!!
これがサキユバスの力!
でも大丈夫……!!
こいつは抵抗できないし
いざとなったら僕でも
倒せるんだ……!!

サキユバスの胸を
オナホのように
扱うパイズリは

あまりにも
気持ちよく
僕は信じられない
量を射精した



それから僕は
このサキユバスを
近くの小屋に入れ……

ハァ♡



冒険もそっちのけで
サキユバスの胸を
性処理の道具にした

ハァ♡



覚悟しろ……!!
今から僕の
おちんちんを……

お前のその
下品なおっぱいに



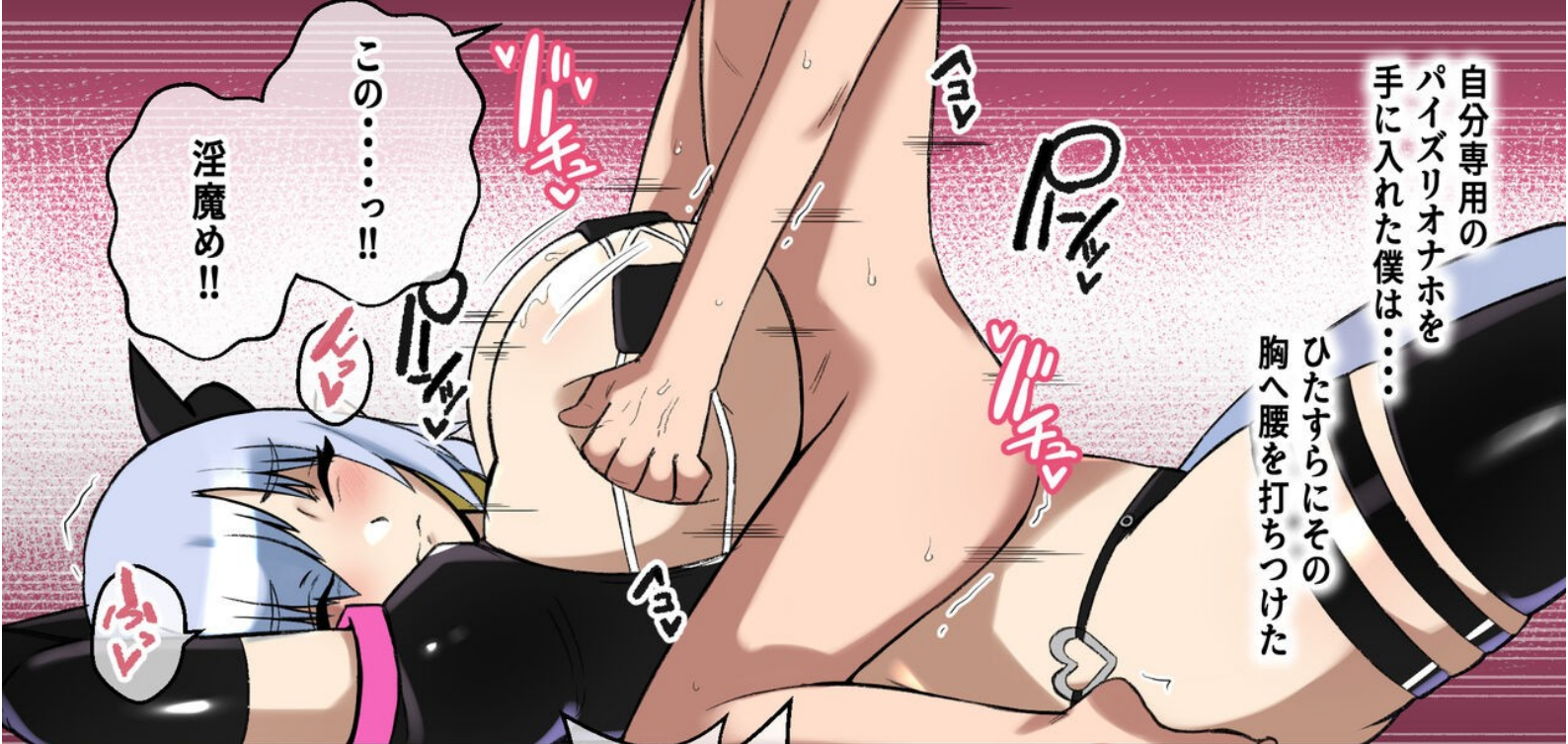
挿乳……

して……



おっぱい……

ほ……



自分専用の
パイズリオナホを
手に入れた僕は……

ひたすらにその
胸へ腰を打ちつけた

淫魔め!!

んっ……!!

ピキッ
ピキッ

P

ピキッ
ピキッ



ううっ!!
イク……ツ!!

おんっ!!

おんっ!!

ううっ!!



こんな悪の
おっぱいは……

おんっ!!

おんっ!!

おんっ!!

おんっ!!



ううっ……

揉み潰して
やる……っ!!

んっ!!
ううっ!!

ううっ!!



ハーツ♡
ハーツ♡
か...
思い知った

それからも僕は
このサキユバスに
性処理をさせた

魔王を討伐し
世界の平和を
取り戻すという
目的を忘れ...

何度もその胸に
自分の欲望を
ぶちまけた...



先端は
念入りに...っ



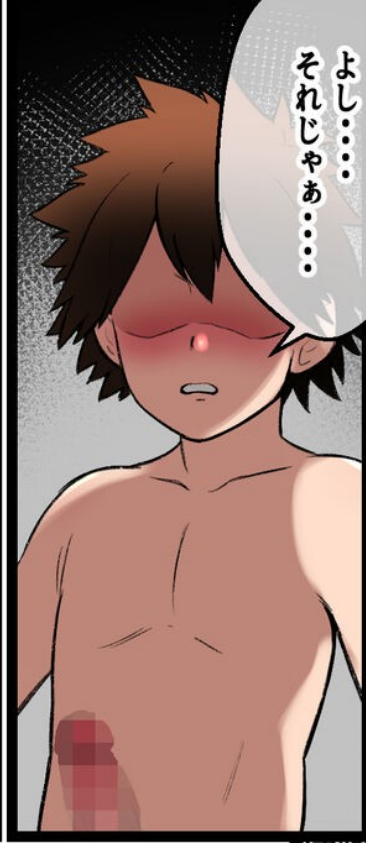
そうやってよく涎を
馴染ませて...♡

そ...
そう...♡



うお...っ♡

そこの台に
移動して……

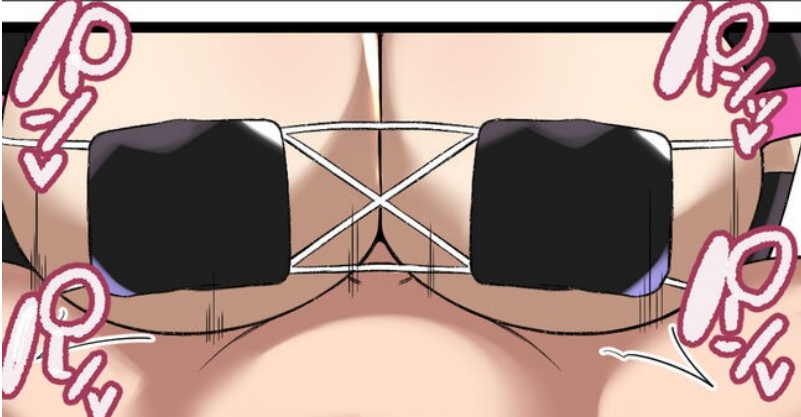


よし……
それじゃあ……



そうやって
おっぱいを揺らして
打ちつけて……♡

うあっ♡
ノーハンドなのに
この挟み具合……♡





でもまだ
足りない
……っ♡

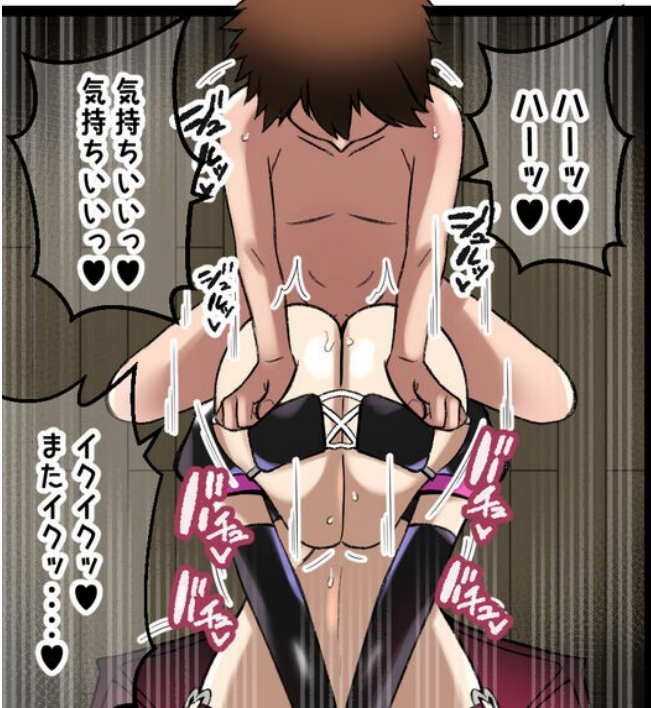
次は
……っ



またたくさん
射精た……



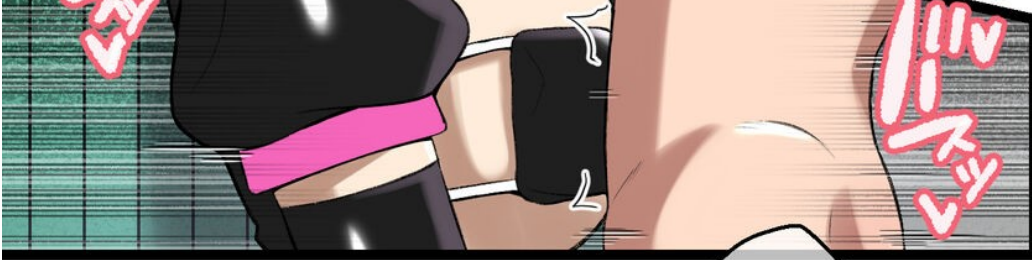
もっもっ
舐めて
……っ♡



ハハハ♡♡
ハハハ♡♡
気持ちいい♡♡
イクイク♡♡
またイク♡♡



うお……っ♡
ああ……っ♡
射精る……っ♡
射精る……っ♡

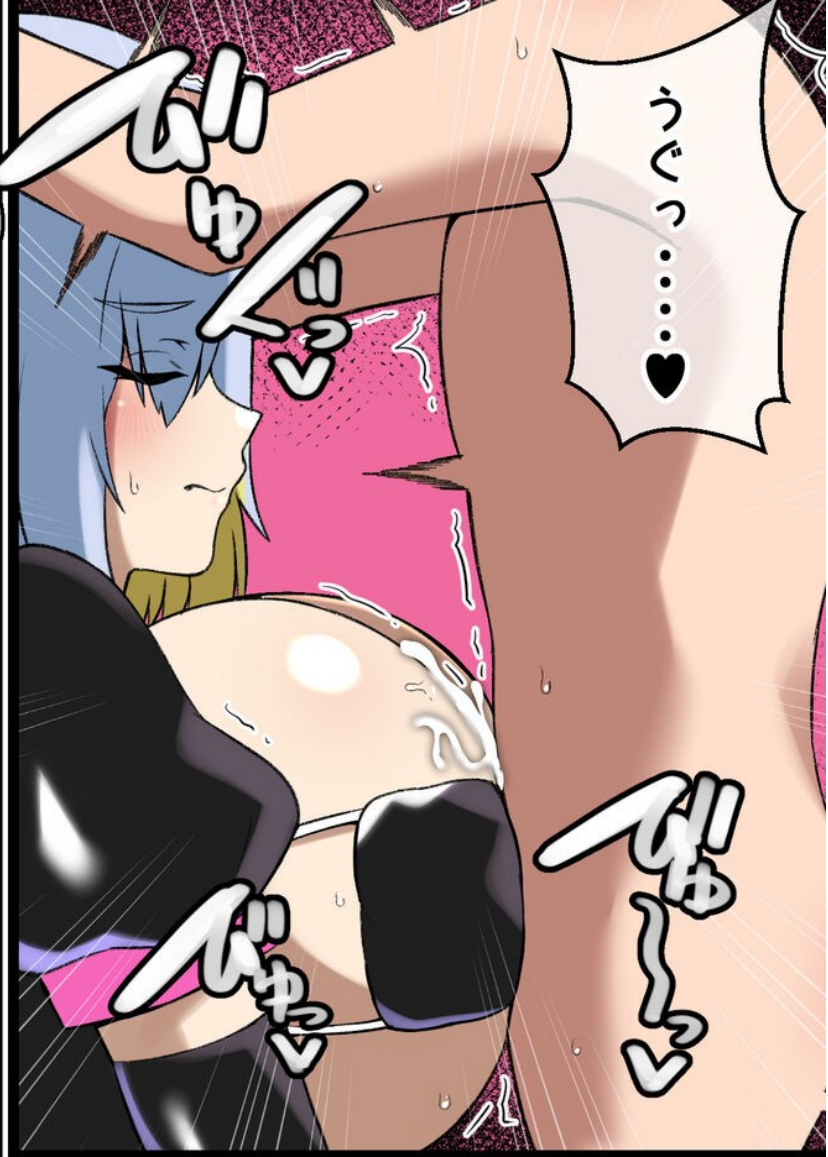


僕は何度も何度も
サキュバスのおっぱいを
犯しつくした……
犯しつくして
やる……っ♡

お前のおっぱい
なんか……っ♡

いつでも倒せるサキュバスを
パイズリオナホにして
使い倒してやろうと思ったのだ

まったく射精欲が
治まる事がなかった

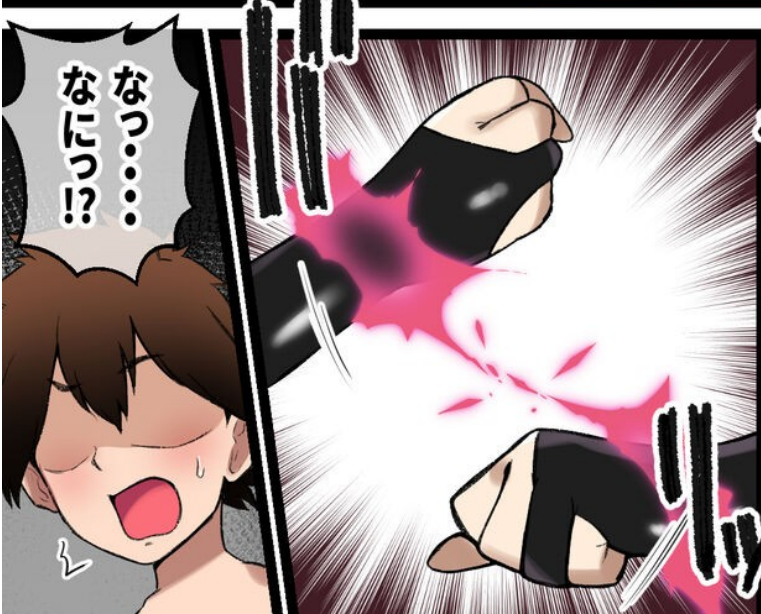


今思えば
完全にサキユバスの
チャームにかかっていた
のかもしれない……

ハーツ♡

ハーツ♡

もはや魔王を倒す事より
目の前のおっぱいを
犯しつくす事しか頭に
なかった……



なつ……
なにつ!!



ツッ!



飽きたら情報を
聞き出してそのまま
倒してしまえば良い……

その油断が
命取りとなった



勝手に精子を差し出して くれるからこっちは 楽でぎちゃいます♡♡♡♡♡



おかげで
たっぷり精気を
吸収できました♡

私のおっぱいを
犯しつくしてくれて
ありがとうございます♡

そ……
そんな……

な……なんかコイツ
体がより大きく……!?



ただし今度は
私が犯す側です
け……♡

さあパイズリの
続きをしましょうか♡

うあつ!?

か……体が
動かない!!

やめ……っ

や……



あなたが私のおっぱいに乳内射精しまくったおかげで...

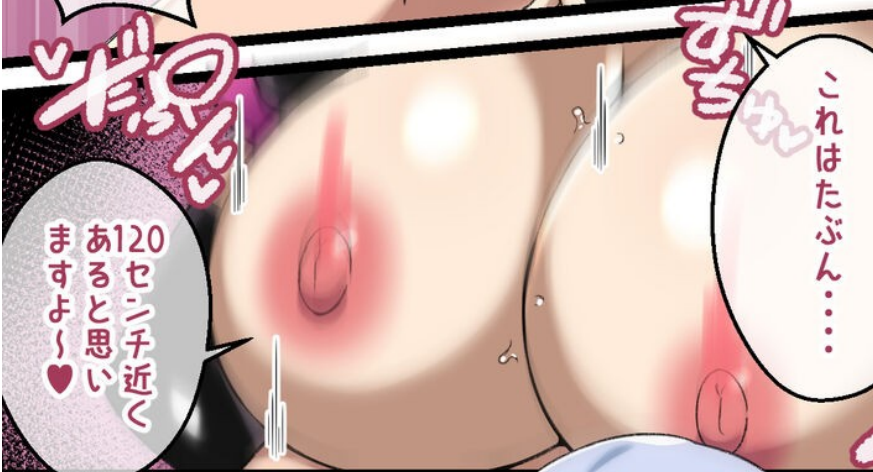
あはっ♡気持ちいいですか？

前よりおっぱい大きくなっちゃいました♡

うぐあ〜っ!!

ど♡

びん



これはたぶん.....

びん

12センチ近くあると思います♡ますよ♡

びん

びん

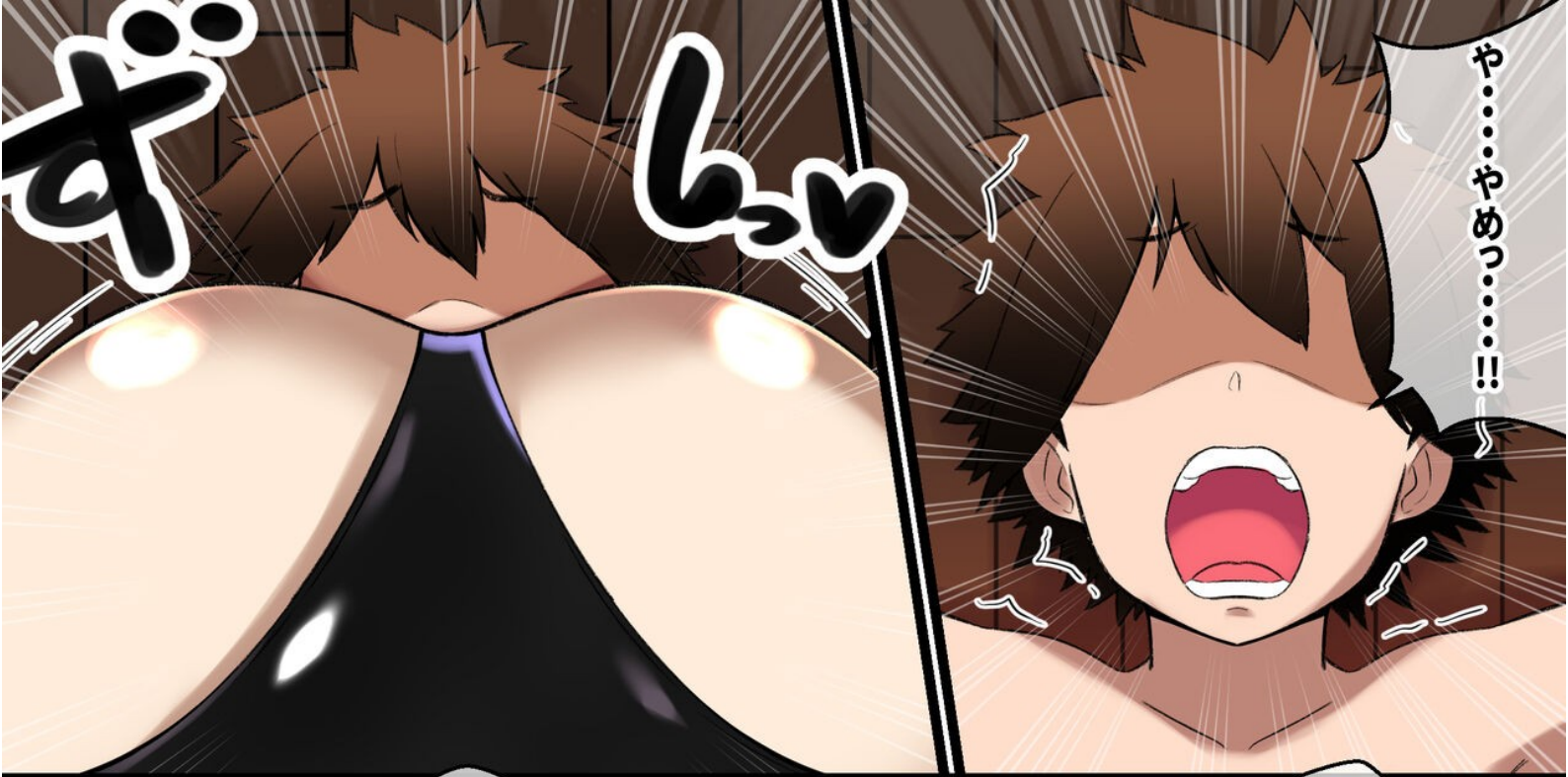


やん♡射精た♡射精た♡私のおっぱいの大きさ聞いて興奮しちゃったんですか♡えっち♡

射精た♡射精た♡

びん

びん



や……やめっ……!!



あ〜ん♡
まだダメですよ〜♡
これくらいで
根を上げちゃ〜♡

自分の本来の
目的を忘れた
わる〜い勇者
さまには……

たっぷりとおしおきを
してあげないとですか
ら♡



おはよ

おはよ

おはよ

おはよ





あ〜ん♥
また射精しましたよ♥
でももっと
もっと……♥

それから
数時間後

こうして
魔族の恐ろしさを
完全に甘くみていた
勇者は……

サキュバスの
パイズリ牢獄に
一生捕えらる
こととなり……

私が満足するだけの
精子を♥♥

さあ勇者様♥
もっと射精して
いいんですよ〜♥

魔王から世界を
救うことができず
一生サキュバスに
精液を差し出す道具
として扱われたという
……





この作品はフィクションです。
実在の人物・団体・事件とは一切関係ありません。

作品の無断転載・複製・販売・加工・AI学習を
禁止します

This work is fiction.
It has no relation to real persons, organizations, or events.

Unauthorized reproduction, duplication, sale, alteration,
and AI training of this work are prohibited



これはまだ勇者が
サキユバスと会おう少し前の話

へっへっへっ……こいつはラッキーだったなあ……
まさかこんなところでサキュバスを捕える事ができるなんてよお……
噂ではサキュバスは魔王軍の中でも幹部クラスだと聞いてたが……
どうやらただの噂だったみたいだなあ

なんだ？俺が怖くて物も言えねえのか？
はっはっはっ……ごりやい……さて……こいつをどうしたものかなあ……

た

ふん

うおおおっ!?

(吸い寄せられるようにこいつのでけえ乳に自分のち○こを入れちまったが……
なんだこの味わった事のないもっちりとした感触と圧迫感は……!?)
んっ……♡

(もしかしてこれがサキュバスのチャームってやつかあ?)

チャームにかかると身も心も支配されると聞くが……)

(だ、だが……こんな怯えた表情してる奴がそんな芸当できるのか?)



ぐおおっ!? すっげえ……っ!! 腰が止まらない!!
ち○こが蕩けちまいそうになる……っ!! はっ!! はっ!!

こんな快感……今まで味わったことない……っ!!
最高の快感だぜ……!!

んっ♡あっ……♡はあ……♡

おっ!? こいつ、感じてるのか……? ははっ……いいねえその表情……っ
余計興奮するぜ……っ

決めたぞ……こいつは俺の性処理道具として扱ってやる!!
お前のその乳で毎日性処理させるから覚悟しろよ!! はあ……っはあ……っ!!



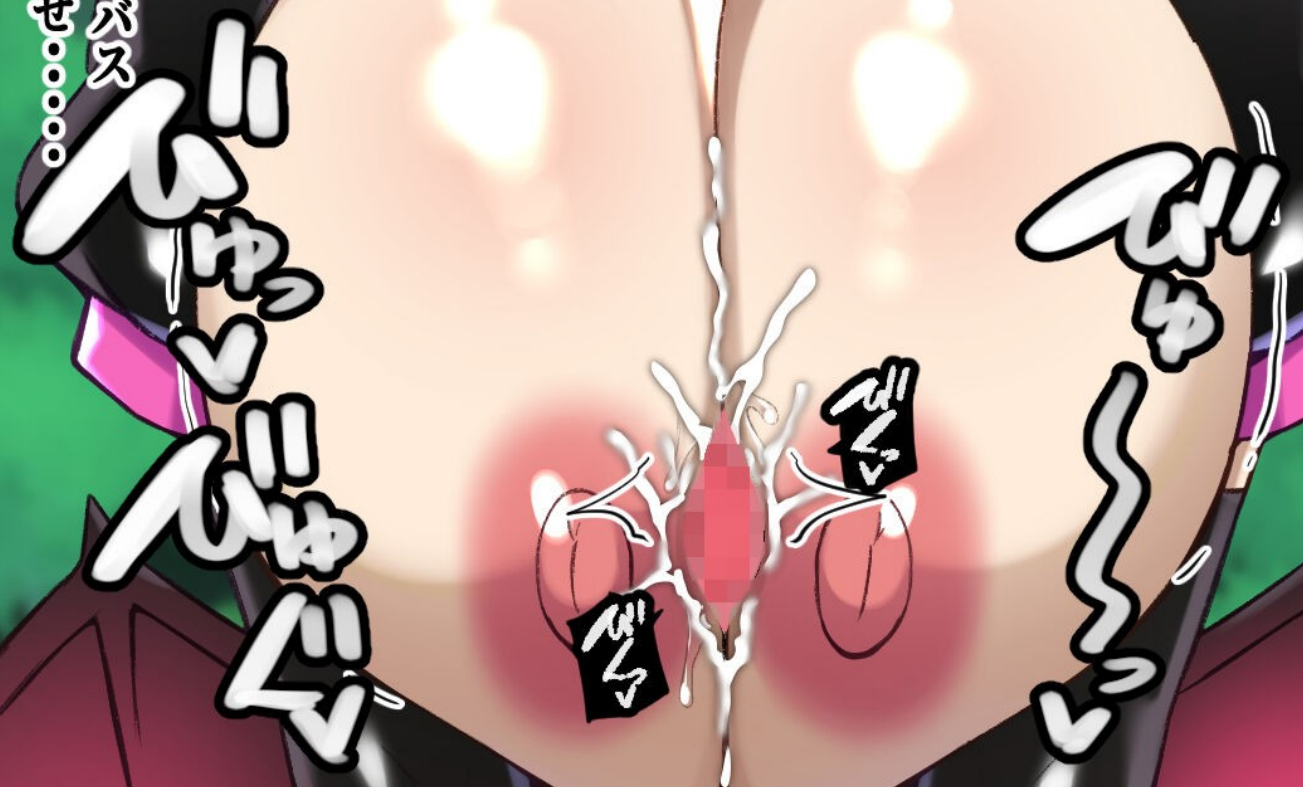
イクツ!!イクツ~~~~ツ♡♡♡♡

ん~~~~♡

うおお~~~~♡はー♡はー♡ヤバい~~~~♡
めちやくちや射精る~~~~♡

はあ~~~~♡さ、最高だ~~~~♡こいつは良いぞ~~~~

まったく抵抗しなかったあたり本当に大したことないサキユバス
みたいだな~~~~♡へへへ~~~~も、もう一回堪能させてもらおうぜ~~~~



数時間後……

うおお……。と、止まらねえ……。これ以上やったら
死んじゃう……。!!

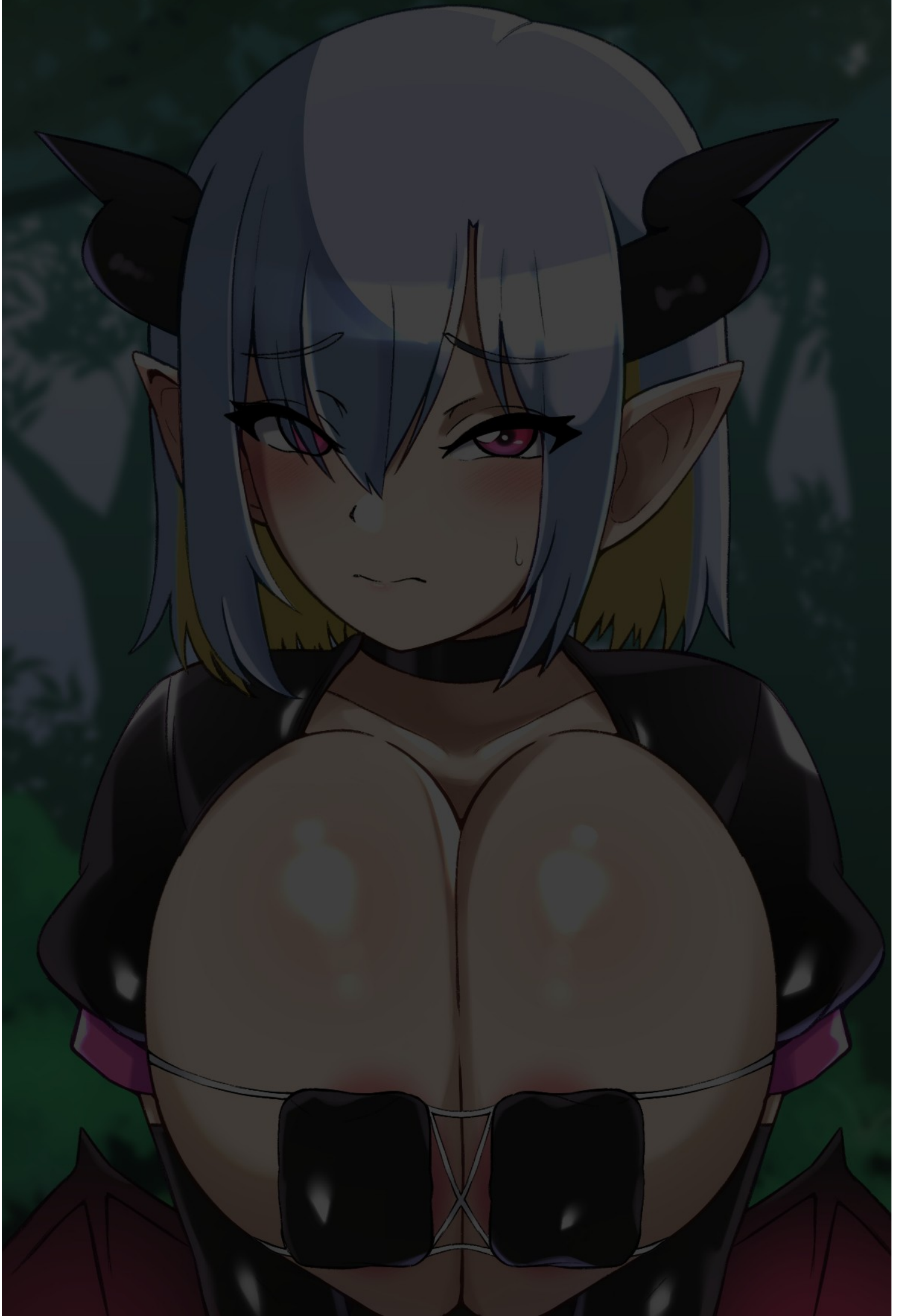
でも気持ち良すぎて腰振り止まん……。も
もう止まってくれ……。も……

（フッフ♥おバカな人間さんがまた引っかかってくれちゃいました♥

私がおざと捕まってるのにも気付かないで……。♥勝手におっぱいに精子
注いでくれるから、おかげで魔力が貯まる一方なのに♥）

（この人間さんももうすぐ干からびて死にそうですね……。♥
次はどんな人が引っかかってくれるのか楽しみ〜♥）







卡

10
15144





